



「世界の中に 住んでいるとは」

「ロビンソン・クルーソー漂流記」にモデルがいたことを知って驚いた。ダニエル・デフォーの小説でクルーソーとして登場する人物は、スコットランド人のアレクサンダー・セルカークであった。彼は、1709年1月、南米チリ沖670キロにあるファン・フェルナンデス島（現在ロビンソン・クルーソー島）で、4

年4ヶ月の無人島生活を送った。最近日本人探検家の高橋大捕氏らの国際チームが孤島で300年前の住居跡を調査したと報じられた。山中腹に住居を造り、助けの船を待つて、4年以上も孤獨な生活をおくったセルカークの気持ちはどんなものであったのだろうか。

1640年代に、チャールズ二世は処刑されて、王制は廃止された。スチュアート朝が復活するが、ロンドンを中心として時代の流れは激しく、近代社会が始まっていた。

しかし故郷は長老派の支配下にあり、家族との憤りもうつ積していた。セルカークは航海長として過酷な航程に乗りだした。“新世界”ではまだイギリスはスペインの勢力下にあつた。ロビンソン島が南太平洋にあるのは地政的な意味があつたのである。船長と対立し、海賊船は彼ひとりを残して出航してしまつた。セルカークは人間の世界からも追放された。しかも無期限であつた。しかし彼は決して野蠻人にならなかつた。かつて属した市民社会を思い描くことで、4年間を生きた。ひとと社会の関係を考える上でヒントになる。

医学博士 西浦信博

（京阪病院院長）

AGORA

2005年11月1日